

令和3年度 特別養護老人ホームふるさと（長期入所） 事業計画

【基本方針】

「団体生活の枠にとらわれず、家庭生活により近い施設生活の提供を行う」

【年間目標】

- ① 感染症予防対策を徹底し、蔓延を防ぐ
- ② 三大介護の基本を確立し、質の高いケアへと発展させていく
- ③ 個別ケアの実践
- ④ ご家族との連携の強化
- ⑤ 誰もが悔いの残らないターミナルケアを行う

【実践計画】

- ① 感染症予防対策を徹底し、蔓延を防ぐ
 - ・各職員が自分の働く場所を意識し、日頃から、もらわない・持ち込まない行動、手洗い・うがい・手指消毒の励行、正しいマスクの着用を呼びかけ、促していく
 - ・職場内外で『三つの密（密閉・密集・密接）』を避け、自分の身を守るとともに、定期的な検温等、自己の体調を把握し管理する
 - ・施設内の温度・湿度管理、定期的な換気、使用物品の消毒等を実施する。
 - ・感染症の現状や症状・対応策等、情報提供を行い、最新の知識を身に着け適切な対応ができるように徹底する
 - ・感染症発生時に拡大させない対応ができるよう、マニュアルの作成・適時シュミレーション等行い備える
- ② 三大介護の基本を確立し、質の高いケアへと発展させていく
 - ・介護度別（重度・中度・軽度）のケアの基本的な指針を科学的介護を進める中で確立させる
 - ・科学的介護を進める中で集められた利用者の情報が提供されることにより、職員が同じ情報を共有し、統一したケアをおこなっていく
 - ・三大介護に関わる各種マニュアルを見直し、質の高いケアを身につけ実践する
 - ・常に丁寧語で接することができる為に、日頃からコミュニケーションを密にし、適切な対応ができるよう方向性を意識づけていく
 - ・接遇チェック表を活用し、定期的に職員の評価をおこない、指摘項目があれば個別で指導する、また全体で改善が必要な項目があれば、速やかに職員間で共有し、意識し合える環境を作っていく
 - ・利用者が常に気持ちよく過ごせる居住空間を保つ

- ・利用者が安全かつ安心して生活できるよう、環境整備についての意識を高める

③ 個別ケアの実践

- ・コロナ禍においてできる、介護度別（重度・中度・軽度）のケアを進め、利用者に合わせたレクリエーションプログラムを組み立てていく
- ・個々の希望と能力・体調面を確認し、参加できるレクリエーションを見つける
- ・利用者のお誕生日を当日にお祝いする
- ・お誕生月には利用者が好きなメニューを提供する
- ・利用者の夢を叶える（行きたい場所への外出等）
- ・感染状況を確認しながら、外出企画をする(桜・紫陽花・向日葵等見学)
- ・気候の良い時は屋上に散歩し、外の風を感じてもらおう

④ ご家族との連携の強化

- ・コロナ禍において、引き続きオンライン面会を推奨するとともに、ZOOM等の機能を取り入れる等、ご家族との距離が近くなれるように検討し実現させる
- ・利用者のお誕生日にはオンライン面会やお誕生日カード等を利用し、一緒にお祝できる方法をご家族と相談していく
- ・利用者の日々の施設での過ごし方を様々なツールを使って発信する
- ・ご様子以外に電話やオンラインを通じて、担当介護士が関わっていく
- ・ご家族の希望や想いを個別に相談し、共通理解のもと利用者の支援にあたる
- ・共に利用者を支援しているという気持ちになって頂けるよう働きかける
- ・家族会の在り方を考え、施設に来て頂く機会を作っていく

⑤ 誰もが悔いの残らないターミナルケアを行う

- ・意思を伝えられる利用者には最期をどのように迎えたいか聞いておく
- ・ご家族との歴史が回想できるような空間を作る
- ・利用者が好きだった音楽を居室で流す
- ・ほっとできるような香りの中で過ごして頂く（アロマや花等）
- ・最後の食事として、食べたいメニューを聞き提供する
- ・最後の日まで入浴をして頂く
- ・ご家族とともに最後までその人らしい人生を全うできるよう支援する